

平成 24 年度 教員免許状更新講習・シラバス

講座 番号	3	講座名	日本史（歴史）教育に地域史研究の成果をどう活かすか（その１）					
担当講師		開催地	時間数	日程	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法
秋山 伸隆		広島キャンパス	6 時間	7 月 28 日	中学校社会科・ 高等学校地歴科 教諭	40 人 （最少開催 人数 3 人）	講義	筆記
到達目標		日本史（歴史）教育の素材となる地域史研究（戦国大名毛利氏）の最新の知見を理解している。						
【講座の概要】 身近な地域歴史や文化遺産の学習を通して歴史への関心を高めることを求めている学習指導要領に対応するため、広島県地域を対象とする最新の研究成果（戦国大名毛利氏を中心とする地域史研究）を紹介しながら、新たな知見を日本史（社会科）の授業の展開にどのように活かしていくのかを考える。								
【講座の内容】 講義 1：毛利氏家臣団の構造 戦国大名の家臣団は、直臣団、服属させた国人層、および地侍層から構成されるのが通例である。毛利氏の場合、「吉田衆」と呼ばれる直臣団は親類衆（庶家）と譜代家臣に区分されている。「国衆」と呼ばれる国人層は、毛利氏とは身分的に同格の存在であり、傘連判形式の署名に象徴されるように自立性が強い。毛利氏が「国衆」連合のなかに埋没せず、戦国大名としての軍事力を確立することができたのは、地侍層を「一所衆」として編成し、直属軍事力の底辺を拡大することができたからである。「寄親・寄子制」と呼ばれる地侍層の編成方法の特徴を、毛利氏の場合を例として明らかにする。 講義 2：毛利氏と石見銀山 戦国大名はどのようにして領国を支配することができたのか、その財政的な基盤について考える。毛利氏の場合、財政収入の基本は直轄領の年貢と直轄領・給地の別なく徴収する段銭であるが、それ以上に重要なのは石見銀山である。戦国大名が鉱山の開発を積極的におこなったことはよく知られている。石見銀山からの収入とはどれほどであったのか、どのような用途に支出されたのか、戦争遂行にとって銀山はどのような意味を持っていたかを具体的に考える。あわせて世界遺産石見銀山と厳島神社の、意外に深いつながりについても明らかにする。 講義 3：戦国の合戦と城郭 戦国時代といっても、両軍の主力が正面衝突する合戦が、いつも起こっているわけではない。敵味方の間には幅の広い「境目」があり、両軍の城郭が点在し、合戦はそれらの城郭の争奪戦という形を取ることが多い。戦国時代の城郭は、土塁、堀、塀・櫓などの防御施設をめぐるしているから、攻め落とすことは容易ではない。城郭をめぐる攻防は、包囲、籠城、援軍の到着、両軍対峙という経過で長期化することが多い。郡山城跡（安芸高田市）などの広島県内の主要な城跡を紹介しながら、戦国時代の城郭の特徴と合戦の実態、合戦と兵糧の関係を具体的に明らかにする。 講義 4：戦国の合戦と鉄砲 戦国時代に日本に伝えられた鉄砲は、まもなく国内でも生産されるようになり、戦国の争乱の展開と天下統一の行方に大きな影響を与えたとされている。しかし、長篠の合戦における織田信長の鉄砲隊の活躍が強調されているにもかかわらず、合戦の現場で鉄砲がどのように使われたかについては、実はほとんど明らかではない。そこで、戦国大名毛利氏の場合を例として、鉄砲使用の初見、鉄砲装備の程度、鉄砲衆の構成とその運用の仕方、小規模・分散配属から集中投入へという運用のあり方の変化、弾薬の調達方法などについて具体的に明らかにする。								
【備考】 学校でお使いの中学校・社会（歴史分野）、高等学校・日本史の教科書をご持参ください。 試験の際には、配付した講義資料のみ、持ち込みを認めます。								

注）予備日は 8 月 4 日（土）とします。